

理春

★

山

山

山

REEL No. 1-0728

0148

附屬書類添付

交06028號

通商
大正
元年
九月
三十日

通商
大正
元年
九月
三十日

第
一
類
第
一
號

館 公 外 在

大正元年拾月拾六日接獲
通商第一課
理發第五九號

大正元年九月三十日

在 琿 春

副領事大賀龜吉

大賀龜吉印

外務大臣子爵内田康哉殿

大正元年一月廿一日記
通商第一課

管内事情調査書提出ノ件

四月十日付送第一八號ヲ以テ御訓達、
趣致領悉候就テハ別冊調査書茲ニ及
提出候間可然御取計相成候様致度
此段御回報申進候敬具

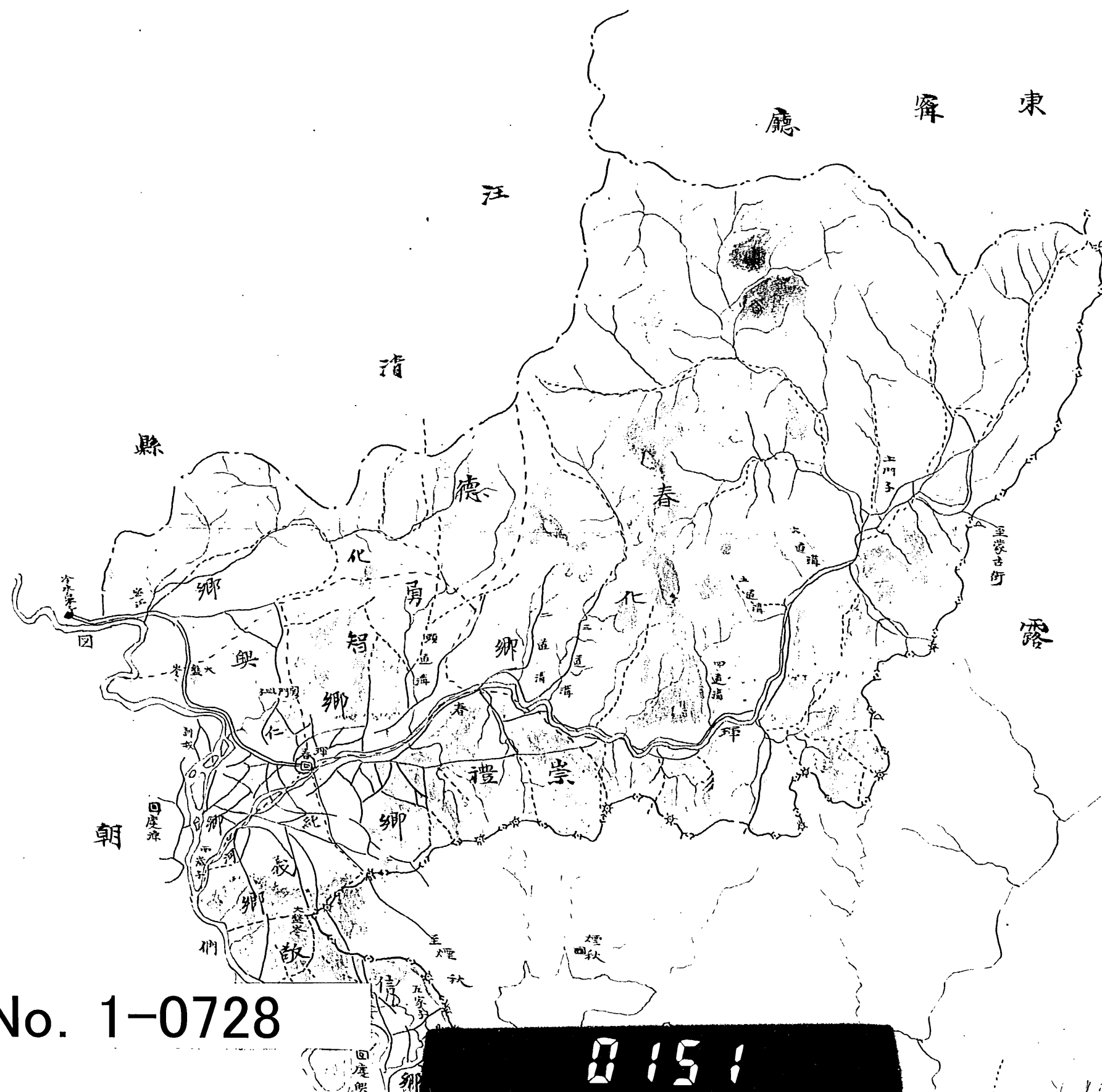
REEL No. 1-0728

0149

琿春事情

REEL No. 1-0728

0150



REEL No. 1-0728

0151

234

○ 琿春事情

目次

第一章 地勢面積人口及職業、大要

第二章 管内實業上の特長

第三章 衣食住、状態

第四章 氣候並衛生

第五章 貿易

第一节 外國貿易

第二节 外國貿易

輸入品

琿春本邦間貿易

第六章 内國商業並市場

第七章 工業及鑛業

第一节 工業
第二节 鑛業

第八章 農業及畜産業

第九章 水産業及林産業

第十章 貨幣金融並度量衡

第一节 貨幣金融機關並度量衡

第十一章 交通及通信

第一节 管内於ハル交通路ハ通信

第十二章 居留地

各居留地職業別表

第十三章 公私立施設

税関ハ商務會ハ學校ハ教會堂

第十四章 土地家屋、實買並賃貸借ノ價額

天正年附三右附左琿春帝國總領事館副領事大賀龜吉

2

235

三三〇

琿春事情

第一章

地勢、面積、人口及職業、大要

當分館ノ管轄ハ吉林省東南路兵備道台ノ管下ニ属スル
琿春廳ノ管轄地域ニシテ東ハ東寧廳北ハ汪清縣
西ハ圖們江ヲ隔テ、朝鮮ニ對シ南ハ琿春河ノ左
岸ニ連續セル山嶺ヲ國境トシテ露領沿海州ニ接
壤セリ本地域ハ所謂琿春平野ナルモノヲ除ケハ殆
ト山嶺重疊ノ地ニシテ僅ニ東寧廳ト接境セル老嶺
山脉中ニ源ヲ發シ東ヨリ西ニ向ヒ露境ニ近ク流レテ圖
們江ニ注キ約三十余里ノ流域ヲ有セル琿春河（一名紅
旗河）ノ沿岸地帯ニ點々タル平地ヲ見ルモ琿春河ノ
東北一帶ハ人跡ナシ山嶺聳立シテ東南北ノ三面
悉ク山ヲ以テ圍繞セラレ西方ハ即チ琿春平野ニシ

テ圖們江ヲ隔テ朝鮮地ニ接スル琿春市城ハ此平野
ノ北方ニ在リテ西三里ニシテ鮮地ノ訓戎ニ對シ南三里
ニシテ露境ニ達ス如斯地勢ナルカ故ニ琿春城ハ吉林
省ノ边防地帯トシテ重要ナルト同時ニ露領煙秋
ホセツトヲ經由シテ浦塩新德又鮮地雄基ヲ經由
シテ清津ト外國貿易通路ニ當リ管内地域ハ
勿論遠ク向島方面ニ對スル商貨運搬ノ地点タリ去
ル明治四十二年浦塩港開鎖セラレタル以來琿春雄
基トノ貿易關係日ニ月ニ密接トナリ日支商ノ大ニ注
視スル所トナリ當地方ニ於ケル本邦貿易益々展
傾向ヲ呈セリ
管内ノ面積約百六十五方里アリテ其ハ割強ハ山林
地帯ニ属シ僅ニニ割弱ノ耕地アルノミナリ

本年五月當地自治會ノ調査ニ據レハ管内ノ全戸數七千百六十
二人人口三万八千三百七十四爲ナリトス之ヲ各郷社ニ區別
スレハ左ノ如シ

區別	戸數	男	女	計
琿春城區	七五八	三、一一二	九一二	四、〇二四
興仁郷	九八五	二、九一五	二、一九〇	五、一〇五
純義郷	一、〇二〇	二、七八六	二、三〇三	五、〇八九
崇礼郷	八五九	二、五八八	二、一五四	四、七四二
勇智郷	八六四	二、六五四	二、一六八	四、八二二
敬信郷	八八三	二、八八三	二、四九九	五、三四二
徳化郷	三二一	一、一四九	一、〇三七	二、一八二
春化郷	一、四七二	四、〇六〇	三、〇〇八	七、〇六八
總計	七、一六二	二二、一四三	一六、二三一	三八、三七四

本統計ハ支那人ヲ合算シタルモノニシテ其各別數ヲ知ルコト
能ハサルハ頗ル遺憾ナルモ右全人口ノ三分ノ二ハ鮮人ニシ
テ其餘ハ支那人ト見テ大差ナカルベシ琿春城内外ニ居住
スルモノハ重シ支那人ニシテ鮮人ノ住居セルモノ僅カニ四
十余名ニ過キサルモ他ノ村落ニ於テハ支那人三鮮人七
ノ割合ナリトス

琿春ニハ日本人百四十八名居住セルノ外税関貿易名ノ
歐洲人(其々他露國人二名)アルノミニシテ他ニ外國人ノ
居住者ナシ
管内ニ於ケル住民ノ職業ハ殆ト全部農業ト見テ差支
ナク只琿春城内外ニ四百余戸ノ商家アルノミニシテ工
業ノ如キハ油房ノ外他ニ見ルベキモノナシ
左ニ管内ノ地圖ヲ示スベシ

2

第二章 管内實業上ノ特長

237

當管内ハ全ク農業ヲ以テ本位トセル地帯ニシテ農家ガ土地ノ耕耘穀類ノ運搬用ニ供スル馬匹ヲ飼養スル重ナル糧品ハ豆糟ナリトス故ニ粟又ハ小麦等ヲ耕作スルニ適セサル地ニハシタ大豆ヲ栽培以其産額少カラサルヲ以テ豆糟及豆油ノ製造業盛ニシテ現ニ琿春市街ニ二十余軒ノ油房アリ其油房製造油糟ハ附近農家ニ於テ收穫シクル大豆ト交換セラル、ミナラズ煙秋ボセトヲ經由シテ浦塩ニ輸出セラレ又同地ヨリ本邦ニ再輸セラル、モノ勘カラス實ニ該品ハ本地方ニ於ケル外國貿易品ノ大宗ナリ

第三章 衣食住ノ状態

カニ節衣 木衣

ニ三六

管内ニ於ケル支那人男女ノ服裝ハ頗ル質素ニシテ華美ノ風ナシ上流者ハ蘇杭産ノ綢緞衣ヲ纏フモ中流以下ハ多ク綿衣ヲ着最寒ノ際上下共ニ服裏ニ毛皮ヲ付クルノ外北清地方ニ於ケル支那人ノ服裝ト何異ナルコトナシ中流以下ノ着服色合ハ皆紺ニシテ上衣ノ短衣ハ多ク黒色ノ縹子ナリトス近來辨髪ヲ断ナシト同時ニ官吏及紳商ノ洋服ヲ着用スル傾向アリ

カニ節食

主食物ハ米又ハ粟ニシテ當地方ニ米ヲ産セザルハ故ニ其食用、米ハ吉林方面又ハ朝鮮ヨリ輸入ヤシタルモノニ係リ其代價廉ナラザルヲ以テ多ク南清地方ヨリ來ル官吏其他上流社會ノ富裕者ニ非ニ使用セラレ其他ハ粟ヲ以テ常食ト下流ノモノニナリ地ナリ産

238

小麦粉ヲ以テ製造セシ
又時トシテ玉蜀黍ヲ粉碎シテ之レヲ粥トシテ食
ス副食物ニ至リテハ其材料タルヘギモノ當地方ニ産セ
サルハ故ニ悉ク吉林方面ヨリ輸入セラル從テ其價格低
廉ナラザルヲ以テ上流者ニアラザレハ
所謂支那料理ナルモノヲ味フコト能ハサルハ状態ニシ
テ下流社會ノ饅頭又ハ麵類ヲ常食セシモノハ副食物ハ
簡單ニ蔬菜又ハ塩魚等ニ過トズナリ實ニ簡單ナルモノニシテ

住

家屋ノ構造ハ先ツ地下二三尺掘下ケ煉瓦又ハ礫石ヲ
以テ基礎ヲ造リ更レヨリ土煉瓦(燒燻セラルモノ)ヲ積ミ
上ケ後泥土ヲ塗りテ圍壁トナシ之レニ棟梁ヲ横ヘ

屋根ハ下葺ニ高梁穀又ハ藁ヲ用ヒ後泥土ヲ塗り其
上ニ草ヲ葺クヲ常トス故ニ家屋ノ大部ハ殆ント泥
土ニシテ葺ニ棟梁門戸及窓戸ヲ造ルニ木材ヲ用ユル
ノミ而シテ冬季寒氣強キヲ以テ二階建ノ家屋ヲ
造クルコトナク皆平屋作りナリ又屋內ニ炕(床下
氣ヲ通)ヲ設ケテ起居ノ室トナシ其焚キ口ニハ大ナル鍋
ヲ据ヘ料理ノ用ニ供シ焚キ口ノ火ハ炕下ヲ通レテ屋外
ニ設ケタル煙突ニ出テ室內ニ暖ム屋根裏ニハ天井
板ヲ張ラサルヲ常トス共中流以上ノ住家ハ梁木ノ
間ニ小板ヲ張り之レニ種々ノ模様ヲ印セル西洋紙
ヲ貼リ尚ホ四辺ノ壁ニモ木模紙ヲ張りテ稍々美觀ヲ呈セ
ルモノアリ窓戸ノ如キハ極メテ少ナク單ニ光線ヲ採
入スルヲ以テ空氣ハ流通頗ル悪シ

2

第五章 貿易

流行病ノ發生ナク一名ノ本邦醫師琿春ニ開業シ居ルカ病患者ノ大部ハ花柳病ナリト云ヘリ

240
二三九

琿春ハ吉林省ノ東南國境ニ於ケル有名ノ市場ニシテ
浦潮斯德カ自由港ナリシ當時同港トノ間ニ海產物
外國品ノ輸入及豆油等ノ輸出盛ニシテ遠ク間島及
齊古塔方面等モ其商業區域ニ屬シ外國貿易上頗ル
重要ノ地魚タリシガ去ル明治四十二年中浦潮開港セ
ラレ垂四十三年ニ當テ事實上開市場トナリ同年一月
中海關開設セラレテ輸出入貨物ニ對シ課稅セラレニ
至リカフルニ新行政費ノ賦課稅アリシ國民ノ意氣銷
沈シ市場大ニ不振ノ傾向ヲ呈シタリ此時ニ當リ北鮮清
津港ノ開港ハ之レカ趨勢ヲ挽回スルコトヲ得露領ニ於テ

ル重稅貨物ハ悉ク清津ヨリ雄基ヲ經テ當地ニ輸入セ
ラルニ至レリ是ヲ以テ當テ琿春ノ貿易經路ハ(一)浦潮
煙秋及ボセツト經由(二)清津(雄基經由)間(三)吉林
間ノ三線ナリトス
浦潮經路ハ當地ヨリ煙秋迄九里同地ヨリボセツト迄三
里ボセツトヨリ海路汽船八九時間ニテ浦潮ニ達得リ
通路ニシテ陸路亦平坦山嶺ノ峻坂ナク三商路中最モ
便利ナルモノナリ
清津經路ハ先ツ當地ヨリ鮮地新阿山又ハ下汝坪ヲ經
過シテ雄基ニ至リ夫レヨリ海路清津ニ至ルモノナリ即
チ琿春ヨリ雄基ニ至ルニ新阿山ヲ通過スレハ十六里下
汝坪ヲ通過スレハ十八里距離アリテ第一ハ二日乃至三
日ヲ要シ第二ハ四日乃至一週間ヲ要ス雄基ヨリ清津迄

241

二四〇

ハ汽船六七時間ニ達ス

吉林経路ハ全距離千二百清里アリ道路頗ル險惡通過イ
トキ山嶺少ナカラサルノミナラズ雨季ハ泥濘ヲ極メ交通往
々杜絶スルコトアリ冬季結氷中ハ十日内外ニテ達スルモ
普通ノ時ニ於テハ十五日乃至二十日ヲ要ス

商路ノ状態前記ノ如クナルヲ以テ浦潮ニシテ若シ其通
関課税苛重ナラサル以上ハ同港トノ外國貿易殷盛
ナルヘキ筈ナルモ開鎖セラレタル今日ニ於テハ輕税若クハ
無税品ノ當地ニ輸入セラル、ノミナリ故ニ清津経路
ハ當地ト貿易上最モ密接ノ關係ヲ來ス至リ本邦貨
物ハ勿論歐米品ノ大部此方面ヨリ輸入セラル吉林経
路ハ單ニ内地品ノ搬輸ニ止マリ外國品ノ此通路ヨリ輸入セ
ラル、モノ甚タ少シ而シテ當地ノ外國貿易ハ重ニ清津

不節外國並ニ

ニ據ルコトナリタルト同時ニ間島方面モ亦此港ニ據ルコ
トナリ蜜古塔方面ハ東清鉄道ニ近キカ故ニ昔時ノ
琿春商業範圍ハ此等方面ニ削減セララル、ニ至リシモ尚
ハ高麗嶺以東汪清蜜古塔方面ノ一部東ハ浦潮西南
ハ圖們江對岸鮮地ノ穩城訓戎慶源慶興ヨリ雄
基清津ニ至ルノ商業區域ヲ有セリ
今當地開市以後ノ外國貿易額及内地貿易額ヲ示セ
ハ左ノ如シ

外國貿易額

	輸入	輸出	合計
明治四十三年	一一五、六八一	一四六、四六六	二六二、一四七
明治四十四年	二六〇、八一	一八四、七四〇	四四四、五五一

内地貿易額

242

品名	単位	明治四十三年	明治四十四年	差
外國棉布類				
生金巾	反		一二〇	一二〇
金巾	反	三二	二〇〇	二〇〇
金巾	反	一二〇	一三一六	一二八四
金巾	反	六七八	五三〇	四一〇
金巾	反	一〇八五	五五六一	四八八三
晒金巾	反		七四四	三四一
金巾	反		三六	三六
金巾	反		一四七	一四七
雲布	反	九五		九五
金巾	反	一八〇		一八〇

明治四十三年 四二、三二七
 明治四十四年 四、九三三
 前二表ニ於テ兩年ノ貿易額甚シキ差違ヲ示セ
 ルハ四十四年一月ヨリ四月迄ノ間當地海關ノ輸出入
 稅徵收ニ對シ商民一時不平ヲ唱ヘ通關手續ヲ
 ナサ、リシモノ多ク、要スルハ四十四年ノ前記統
 計ハ八月ノモノト見テ差支ナキハ、而シテ四月迄ノ
 農作ノ一般人民ニ購買力ヲ増加セシ
 ヲタルニ、
 今當地ニ於ケル重要輸出入品ノ數量及價額ヲ
 示セハ左ノ如シ

ニ
四
二

243

綿 ストライプ	綿 ホル	模 擬 土 布	緋 金 巾	天 鷲 絨	綿 毛 布	浴 布	ハン カ チ フ	其 他 綿 布 類	綿 縫 糸	毛 織 物	毛 布	其 他 毛 織 物
反	反	反	反	反	枚	打	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ

五 八	三 二	四 九 六 〇	一 七 〇	一 三 二	二 一 六 四	二 七 二 〇	一 八 九 五 三 七	三 五 五	二 四 〇	二 四 〇	二 四 〇	二 四 〇
五 八	三 二	四 九 六 〇	一 七 〇	一 三 二	二 一 六 四	二 七 二 〇	一 八 九 五 三 七	三 五 五	二 四 〇	二 四 〇	二 四 〇	二 四 〇

全 本	全 上 海	全 上 海	全 上 海	全 上 海	全 上 海	天 竺 布	更 紗 類	伊 太 利 布	ラ ス チ ン グ	染 色 雲 脊 布	染 色 ジ ー ン ス	染 色 金 巾	染 色 天 竺 布
ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ	ッ

二 六	一 二 〇	三 九 〇	六 四 一	八 〇	三 五 〇	二 七 四	一 三 八	五 五 七	九 九 二	三 七 八	二 〇	二 〇	二 〇
二 六	一 二 〇	三 九 〇	六 四 一	八 〇	三 五 〇	二 七 四	一 三 八	五 五 七	九 九 二	三 七 八	二 〇	二 〇	二 〇

二四三

244

生	衣	紙	磁	小	燕	蠟	麦	豆	錫	金
棉	類	卷煙 二 等品	器	麥	米	燭	酒	類	孟	(金)
担	両	千 何	両	〃	〃	担	両	担	グ ロス	枚

一一九	一〇五二	二四六	一〇五	一八	七二	二七五七	一九
-----	------	-----	-----	----	----	------	----

三四〇	一七六七	五八六八	九五六	一六五五	一七八	五五九	七〇	一四四〇
-----	------	------	-----	------	-----	-----	----	------

二二一	一七六七	四八一六	九五六	二四六	五五〇	一七八	七二	五五九	六七五七	一四四〇
-----	------	------	-----	-----	-----	-----	----	-----	------	------

麻袋	外國雜貨	亜鉛	古鉄	鉄	鉄	薄鉄	釘及針	鉄	擇鉄	金	土	内國綿布類
(新)		板	鉄	器	力	板	金	薙	鉄	類	布	
枚		担	両	〃	〃	〃	〃	担	担		担	

二〇八	二九七	四四	六二	九三	三一	二六〇	二〇
-----	-----	----	----	----	----	-----	----

二五九八	三二	一五	一一三	九五四	四三
------	----	----	-----	-----	----

二五九八	二〇八	二九七	二九	六二	九三	八二	六九四	二三
------	-----	-----	----	----	----	----	-----	----

二四
245

酒類	紙類	石油空罐	全	全	石	各種縫針	練乳	藥種類	藁席	燐寸	器械類	灰汁
〃	面	何	〃	〃	ガロン	十本	打	面	枚	グロス	面	〃
		七、九八四	一〇、三六〇		四、一六〇	一七六	一七八		二、一三二	三、七五三	一八五	九三
三、一一五	一、九二四	二七、八五九	四、六〇〇	二、七八〇	二二、八五五	四一六		一五〇	四、五三七	五、五八七	一、九三八	九三
		一九、八七五	五、七六〇	二、七八〇	一八、六九五	二四〇	一七八	一五〇	二、四〇三	一、八三四	一、七五三	〇

石灰	ランブホヤ	鉄鋏	バケツ	牛草	乾草	落花生	窓硝子	果物類	塩魚	生魚	染料
担	面		個	〃	〃	担	箱	〃	〃	担	面
二、九四	二七〇	五〇八	九六	七五九	一〇二	六七	二〇七	三九三	二一五	二二四	
二、一二	五	三、九四五	四、九一四	二一八	一〇五一	二一二	一〇五	七〇八	九〇三	二六五	三〇五
四二	五	一二二	二九二	一〇二	一四九	一〇二	三一五	六八八	四一	三〇五	

二四五
246

懷中時計 内國雜貨 生豚 家禽 布袋 豆糟 黃豆 支那書籍 藁掃 綿子帽 高粱 栗

八五〇 | 四一九 | 四六〇 | 一三三 | 一五二六 | | | |

四二一七 | 一二〇 | | | 二一九九 | 一〇三 | 四七八〇 | 三一四六 | 七

三三三七 | 一二〇 | 四一九 | 四六〇 | 二一八六 | 一〇三 | 三二六四 | 三一四六 | 七

葉煙草 金運 金運 砂糖 醬油 苛性曹達 結晶曹達 石鹼 栗鼠皮 羊皮 狐皮 水獺皮 昆布

| | 一四二 | 一九九 | 五六九 | 六八八 | 一三二六 | 四一〇 | 九八

十二 | 二一七 | 二九 | 三七一 | 六一七 | 二五二 | 二九六 | 四一九 | 一六〇二 | 一三三〇 | 一三三三

二一七 | 二九 | 二二九 | 六一七 | 五二二 | 二九六 | 一五〇 | 一三二六 | 一三四〇 | 四一〇 | 一三三五

二四ノ 247

乾 小 海 老	煙 管	金 維 (三等品)	紙 (一等品)	胡 麻 油	髪 油	豆 油	藥 種 類	蘆 蓆	蘆 蓆	線 香	鉄 鋏
担	本	羽	〃	〃	〃	担	両	〃	枚	担	個

二	一六四〇	六一〇	二六	一三	一六	六	五〇	九九〇	五四	一一六	四四
---	------	-----	----	----	----	---	----	-----	----	-----	----

△	△		△	△	△	△		△		△	
		一七九四	七二	—			四一	一七一九	五二四		二二二

二	一六四〇	一一八四	四六	一三	一六	六	九	七二六	四七〇	一一六	三三二
---	------	------	----	----	----	---	---	-----	-----	-----	-----

鉄 鍋	水 鋏	枯 草	小 麦 粉	薪 竹	爆 竹	石 炭	綿 衣 類	金 (精製)	陶 磁 器 (粗製)	小 麦	米
両	〃	〃	〃	〃	担	噸	両	〃	〃	〃	〃

四三	一〇九	二〇一	二三	二三	二九九九	五	一九	一二一	三
----	-----	-----	----	----	------	---	----	-----	---

△	△	△		△	△		△	△	
十三	六三	一四〇	一五〇	九二五	四七	四一	三三	二	三四七

四三	四二	一四〇	五一一	五二五	二四	一八	三三	二九九九	三	三二八	三三九一	二四八
----	----	-----	-----	-----	----	----	----	------	---	-----	------	-----

248

品名	単位	明治四十三年	明治四十四年	差
葉煙草	担	一七二	一七二	〇
雨傘	本	六二〇	六二〇	〇
郵便物	面	六五〇	六五〇	〇
豆類	担	二八六	三五一	五五
家畜	羽	一、五〇二	八五四	六四八
豆類	担	二、一六三	二、三〇二	一三九
海産	〃	五三、四一三	六八、〇五八	一四、六四五
麵粉	〃	九、九八	一、四〇二	四〇四
車輪用材	面	一七三	七八八	六一五

品名	単位	明治四十三年	明治四十四年	差
支那酒	〃	一、八四七	三、七九二	一九四五
松實	〃	三、一八九	六、〇五七	二、八六八
支那靴	足	二、二二七	二、二二七	〇
絹織物	担	二、二二七	二、二二七	〇
毛皮衣	面	五五	五五	〇
毛皮	枚	二、三二九	三、三九〇	一、〇六一
木綿足袋	足	四九	八八	三九
砂糖	担	一三	一六	三
紅茶	〃	一三	一六	三
縁茶	〃	一四	一四	〇
軟木丸太	〃	〃	〃	〇
木板	〃	〃	〃	〇

二四八 249

支那酒空籠	支那酒	麻繩	馬鈴薯	紙(三等)	胡椒油	黃油	藥種類	牛皮	雁	果物類(金)
個	〃	〃	担	羽	〃	〃	担	面	〃	担

一九八	一四	一六四	一六五五	二〇、一六八	一五	三七七八	九〇〇	二一	一四	三一八	四二
-----	----	-----	------	--------	----	------	-----	----	----	-----	----

三、九一二	一、六二五	九八	三七二	二九、九九五	一〇二	四、五九〇	八六〇	一八三	一七一		
-------	-------	----	-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	--	--

三、七一四	一、六一一	六六	一、二八三	五、八二七	一〇二	一五	八一二	四〇	一六二	一四七	四二
-------	-------	----	-------	-------	-----	----	-----	----	-----	-----	----

麦粉	塩魚	生魚	麻糸	鶏卵	乾鹿	土布	山麦	燕麦	粟	玉蜀黍	高粱
〃	〃	〃	担	何	頭	〃	〃	〃	〃	〃	担

二二	一一〇	三三	一一七、〇五一	六四二	三〇	一五	六八六	三九四	四、九九三	一五	
----	-----	----	---------	-----	----	----	-----	-----	-------	----	--

五、五八〇			二七、八八三	三八七		二四	五九四	四六〇	一〇、五一五	六八	三一
-------	--	--	--------	-----	--	----	-----	-----	--------	----	----

五、五八〇	二二	一一〇	三三	一五、四八三	二五五	三〇	九二	六六	五、五二二	五三	三一
-------	----	-----	----	--------	-----	----	----	----	-------	----	----

二四九
250

支那	蔬	軟	龍	軟	栗	熊	狐	烏	松
麵	菜	水	木	木	乳	皮	皮	刺	實
担	担	担	担	担	担	担	担	担	担

一、四九一	一、三九一	一、四九一	一、三九一	一、四九一	一、三九一	一、四九一	一、三九一
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

一、六三二	一、六三二	一、六三二	一、六三二	一、六三二	一、六三二	一、六三二	一、六三二
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

一、四三三	一、四三三	一、四三三	一、四三三	一、四三三	一、四三三	一、四三三	一、四三三
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

251
二五〇

第二章

第三章 奉天邦間貿易

奉天邦間貿易ハ當地ニ於ケル商路前記ノ如クナルヲ以テ今後益發展ノ傾向アリテ四年間ノ本貿易價額拾壹万四千五百九拾參兩ニ上レリ之レ多ク清津税關ニ於テ通過貨物トシテ雄基經由ニ以テ當地ニ輸入セラレタルモノニシテ其大部ハ本邦品ニ屬セリ彈春ヨリ本邦へ輸出セシモノハ大豆、小豆、豆糟等僅ニ貳千余兩ニ過キス故ニ本貿易ハ片貿易ノ觀アルモ將來彈春雄基間ノ道路改良セラレ貨物運搬費ヲ減スルニ至ラハ當地方產穀類ノ輸出益多キヲ加フベシ

今本邦輸入品ノ重ナルモノニ付記述スレハ左ノ如シ
一、罐詰食料品 當地ハ山間ノ僻地ナルカ故ニ

海陸新鮮ノ食料品ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ罐詰品ノ需要盛ナリ殊ニ茸類、貝類ハ支那人ノ最も歡迎スル所ナリトス

砂糖

當地方ニハ製糖原料ヲ産セザルヲ以テ砂糖ノ生産ナク全ク他地方ヨリ輸入スルニ依リ年々汕頭又ハ廣東製造ノ糖ハ吉林經由ヲ以テ輸入セラルルモノモ其運賃高率ナルヲ以テ價格比較的高貴ナリ是以テ本邦製品ノ雄基經由ヲ以テ輸入セラル、モノ多ク需要内國品ニ比シ盛ナリトス

ハ生棉

棉ハ當地ニ産セス南鮮地方ノ生産未タ多カラ

二五二

サルスミヤチ 是亦本邦品ノ輸入ヲ仰ク
寒ノ土地 住民ノ着衣ハ其裏ニ毛皮ヲ付ケ
居ルモ棉モ亦必要品ナルヲ故ニ其需要多シ

三、燐寸

此三四年前迄當地方ニ於ケル燐寸ハ悉ク露國製
品ノミナリシモ清津開港以來本邦品ノ輸入盛ニ
トナリ比較的高價ノ露品ハ目下市場ヨリ驅逐
セラレ本邦品ノ需要獨占ノ姿ナリ

五、粗布

即チ「シーチング」ハ支鮮人ニ於テ人造染料ヲ以テ隨
意ノ染色ヲナシテ着物トナスヲ故ニ其需要實ニ無
限ナリ當地日商ノ現ニ輸入セルモノハ多ク大阪製
品ニ係リ賣行好況ナリ

（一）莫大小類、夕オルロ

莫大小類ハ中等以上ノ支那人ニ於テ需要アリタ
オルハ支鮮人間上下ヲ通シテ必要品ナレハ其賣
行盛ニナリ

ト、麻袋

穀類、麦粉類、搬運用トシテ需要多シ

チ、曹達

支那人、常食用タル饅頭製造用トシテ需要
多シ

リ、朝鮮米

南清地方ヨリ來リタル支那人ハ米食ニ慣レ粟食
ヲ好マズ故ニ吉林經路ヲ以テ支那米ノ輸入セラ
ル、モノアリト虽其價格高貴ナルヲ故ニ比較的

253

第六章

右ノ外日本酒、醬油、麥酒、礦泉水等ノ輸入アリ
低廉ノ朝鮮米彼等間ニ需要多シ

内國商業並ニ市場

一九百十年

理春、理春廳管内ニ於ケル唯一ノ市場ニシテ僅ニ昨
年来、開埠地ナルモ己ニ其以前ヨリ當時自由港
リシ浦、開埠ヨリ露債其他ノ外國品ヲ輸入シ又地方
農産物モ露債ニ輸出セラレ間島一帯並ニ北鮮地方
ニ對スル商貨集地トシテ商況頗ル繁榮ヲ極メタルモ
浦港ノ開鎖ニ一大打撃ヲ蒙リ一時不振ノ状態ニ陥
リ、今日ニ於テハ雄基經由、清津ト貿易
盛大トナリ大ニ形勢ヲ恢復セリ、ミナラス益發展
傾向アリテ各種ノ雜貨、綿布、絹織物、糧食品等
ノ百貨市場ニ備ハラサルナク附近一帯ノ地方ヨリ農産

物ノ出荷日々絡繹タリ現ニ域内外ノ商家ハ豆糟製
造業四十戸雜貨店十五戸麵粉製造業拾戸
問屋業參戸皮舖拾貳戸爲替取扱業貳戸其
他木匠、鉄工、肉舖、衣舖、藥舖、飲食店等四百余戸
アリ今重モナル商店ヲ擧ゲレハ左ノ如シ

店名	商業	店主	資本金額
福隆魁	雜貨	劉景	一、二〇、〇〇〇
福記号	全	孔錫	一〇、〇〇〇
春成湧	雜貨及油房	孫恩綿	一〇、〇〇〇
廣順和	全	王有公	一〇、〇〇〇
義順昌	全	方樹公	四〇、〇〇〇
世興隆	雜貨	劉老萬	七〇、〇〇〇
福祥号	全	干錫鍍	七〇、〇〇〇

東昌慶

全

吳 某

六〇〇〇〇

當地方ニ於ケル商習慣トシテハ別ニ特記スベキモノナ
ク日常ノ小賣取引ハ多ク現金賣買ニシテ商賈
間ハ他地方ノ如ク陰曆五月五日ノ端午節八月ノ
中秋及年末ノ三期ヲ以テ清算決着スルモノトス

第七章

工業及鑛業

カ一節

工業口

當地ニハ工業トシテ見ルベキモノナク只農産製造業
ナル油房即チ豆糟豆油製造業及磨坊即チ麵
粉製造業ノ二種ナルニ

大ナル油房ニ於テハ幾多ノ磨臼搾油器ヲ据ケテ原
料タル大豆豊稔ナルハ一ヶ月貳百石ヲ搾油スト云
フ又近來石油發動機ヲ用ユルモノニ軒アリ

二五三

254

磨坊ハ其規模家内工業的ノ極ノナルモノニシテ一
台ノ磨臼一基ノ麵篩台ト以テ二三頭ノ牛馬ヲ動
カトシ原料小麦ヲ以テ支那人ノ常食トセル麵粉
ヲ製造スルモノナリ

右ノ製造業原料タル大豆及小麦ハ當地方及對
岸鮮地ノ生産品ニシテ此等原料ノ收穫後ヨリ
翌年四五月頃迄ノ間其業繁盛ヲ極ムトモ夏季ハ
原料ノ不足又ハ價格高貴ノ為メ一般不振ナル

各戸製造高ノ統計ヲ得ルコト頗ル困難ナルヲ以テ
今茲ニ右等油房及磨坊ノ全製造額ヲ示ス能ハズ

カ二節

鑛業口

當地方ノ鑛業ニ付テハ砂金鑛及石炭鑛ノ二
ツアリ先ツ砂金鑛ヨリ述ブベシ

二五四 258

當瑋春城ヨリ五里ヲ距リタル瑋春河上流右岸ノ二道溝ヨリ三道溝、四道溝ニ至ル地方ハ包轄シテ東溝ト称シ三道溝ヲ中心トシ数多ノ砂金鑛ヲ採掘セラルル其産出額ニ據ルニ確實ナラズ良脉ニ掘當ツル時ハ一日參拾兩(一兩ハ約我十匁)ヲ掘出レルコトアリト出フ雨季スハ嚴寒中ハ採掘力ヲ減スルノミナラズ時ニ休業ノ巨ム可カサル日モアリテ一日僅ニ參兩ヲ掘出レル時モアリテ先ツ毎季一日平均八兩ヲ以テ東溝一帯ニ於ケル砂金ノ總産出額ト見テ差違ナラベシトハ當業者ノ言ナリ而シテ壹兩ハ賣値相場ハ官帖百六十五兩乃至百七十兩ニシテ我々一匁ニ換算シ邦貨金四兩五十錢内外ノ相場ナリトス

右砂金鑛採掘状況、湯水ノ多寡ト砂金層ノ深淺

ヲ相シ概ネ横ニ間半縦五間余ノ坑ヲ開掘シ木框ヲ以テ砂土ノ崩壊ヲ防キ四五尺ヲ下ル毎ニ坑ノ一方ニ幅約三尺ノ階段ヲ殘置シ砂土ノ搬出ニ便ス三大五尺乃至五丈ニテ含金砂層ニ達スル限度トシ更ニ同層ヲ追ヒテ普通一坑(井眼ト称ス)ニ二横坑(洞ト称ス)ヲ開掘シ坑丈豆油燈ノ火ニヨリ作業ニ横坑ノ周圍ハ杭木ヲ以テ支障シ採掘砂土ハ手押四輪車ニテ立坑底ニ搬出サルト同時ニ階段ノ坑夫方匙ヲ以テ順次上層ニ掬ヒ上ケル坑口ニ堆積ス此堆積砂土ハ附近ニ設ケタル仕上場ニ運ビ水ヲ以テ循環流洗シテ砂金ヲ採收ス

右ノ如ク採掘方法甚タ幼稚ナルモニシテ機關等ヲ設備セル大仕掛ケノモノナシ

第八章

農業及畜産業

第一節 農業

ヲ集、從業スルヲ常トス石炭一十斤、市價四円
内外ナリ

琿春地方、炭層ニ富ミ、石炭ヲ産出スト称セラ
ル然レ共其質劣等ニシテ灰分多キ褐炭ナリ只油房
ニ於ケル豆糟製造業及一般ノ暖爐用ニ用ユルノミ
從テ冬季ハ需要多キモ夏季ニ至リテハ殆ト需要
ナキニ至ル現ニ當地附近ニ於テ石炭ヲ採掘セルモノハ
西南四里ヲ距リタル琿春河、圖們江ニ注グ河口ニ
ケ所及北方三里ヲ距リタル關門咀子ト称スル地ニ一
ヶ所アリテ各々年々数百万斤ヲ採掘ス其採掘方法
ニ至リテハ極メテ無雜作ノモノニシテ敢テ番機等ヲ用
ユルトナク炭層ヲ見當テ地平線ニ沿ヒ出水セザル
位、程度ニ於テ山腹ニ横坑ヲ設ケテ掘出スト坑主
ハ僅カニ貳参百四位、資本ヲ以テ開始シ穀類收
穫後ヨリ翌春迄農家ノ閑散ナル時ヲ以テ人夫

琿春一帯ノ農産物ハ大豆、粟、小麦、大豆、大麦、燕麥
玉蜀黍及蔬菜類等ナリトス而シテ當地方ニ於ケル
耕地及別ノ明確ナル統計ナク其産額ヲ知ルコト頗
ル困難ナリ然ルニ琿春廳カ據テ以テ地租ヲ徵收
スル耕地面積ハ貳万五千四百五畝（一畝ハ我々上ノ
ナルヲ以テ之レニ脱税地ニ割ト見込先ツ冬萬
畝ノ耕地アリト見テ差支ナク其平年作産出總
額、概數左ノ如シ

大豆	六〇〇〇一七〇〇〇石
粟	六〇〇〇一七〇〇〇石
小麦	六〇〇〇一七〇〇〇石
大豆	六〇〇〇一七〇〇〇石
大麦	六〇〇〇一七〇〇〇石
燕麥	六〇〇〇一七〇〇〇石
玉蜀黍	六〇〇〇一七〇〇〇石
蔬菜類	六〇〇〇一七〇〇〇石

二五六 257

粟 五〇〇〇石

小豆 四十石

大麦 三千五百石

大豆 三千石

燕麦、其産額甚少、高粱モ亦多ク栽培セラレ、蔬菜類ハ實ニ豊富ニシテ馬鈴薯、如キハ年々數百万斤ヲ産ス

地主ト小作人トノ關係 琿春附近ノ可耕地ハ已ニ殆ト開墾セラレ地主ハ多ク支那人ナルモ圖們江沿岸地帯ハ從來ノ越墾鮮人地主タリ然ルニ琿春河上流地域ハ今尚ホ未墾ノ地多クアリ移住鮮人ニヨリテ墾開墾セラレツ、アリ之等未墾地方ニ於テ小作料ハ地主三分小作人七分乃至四分六分ノ割合ヲ以テ收穫ハ分配セラル、モ開墾當時ニ於テハ

三年乃至五年ヲ期シ熟墾地トナル迄小作人其收穫ノ全部ヲ收得スルヲ常トス、當地方附近ノ如キ收穫多ク耕地ハ大抵五分ノ小作料ナリトス、小作人カ若シ貧困又ハ凶作ノ為メ收穫時ニ至ル迄食糧欠乏ノ場合ニ於テハ地主ハ之レカ食糧並ニ種子等ヲ貸與シ恰ニ主従ノ關係ヲ確アリ、地租 年租一畝地ニ付七百五十文學務及警察費トシテ附加税ニ昂大ノ徴收ス、耕地賣賣 琿春附近ハ一畝ニ付上等地金五拾圓、中等地金四拾圓、下等地金參拾圓ニシテ

琿春河上流地帯ハ

一畝地上等地金貳拾五圓

第二章 258

水産業並ニ林産業

管内ニハ圖們江及琿春河、二流ナルモ水浅クシテ魚

牛馬ニ對スル檢疫法等、實行セラレズ

産牛悉ク煙秋又ハ浦塩ニ輸入スル

琿春ヨリ西南十里、距ル露領煙秋三里、五

家子ト称スル鮮人部落ニ於テハ牧牛ヲ業トシ其

場ニ出ス獲ニ止マリ茲ニ特記スヘキ程ノモノナラズ

當地方ニ於テハ牛馬羊豚ハ畜産ヲ專業トスルモノナリ

ハ農家、副業トシテ居リ自家用料ノ余剩ヲ市

場ニ出ス獲ニ止マリ茲ニ特記スヘキ程ノモノナラズ

中等地金拾五圓

下等地金拾圓

ノニサ郎

蓄産業中

類ノ産出少ナク只ハ八月ヨリ十月頃迄ノ間ニ鮭及細
鱈魚ノ漁獲ナルモ單ニ地方ノ需要ニ止リ水産業
トシテ記述スベキ事項ナシ

ノニサ郎

琿春河上流地帯及密江沿岸地ヨリ木材ハ産出多シ

冬季結氷中伐木林地帯ニ入り伐木

伐倒シ牛馬ヲ以テ江辺ニ曳キ來リ解氷後所

要地ニ流下ス琿春河西岸ノ山嶺ニ於ケル樹木ハ已

伐倒シ木材トシテ積出ス

奥地ニハ巨木鬱生セリト云フ故ニ北鮮地方ニシテ木

材ノ需要ヲランク其供給蓋シ無盡蔵ナルベシ今

産出材ノ種類並ニ市價等ヲ掲記スルハ左ノ如シ

ノニサ郎

本邦ノ赤松ノ類ニ酷似シ

ノニサ郎

259

材質良好ニシテ當地方ニ最モ多ク産出ス一尺乃至二尺半、長サ二丈モ、市價二十吊乃至二十五吊ナリ
本邦ハ家屋建築用又ハ家具什器製作用トシテ
需要最モ多シ

口、沙松 木質前者ニ比シ稍・軟ク、白色ヲ帶
ヒ割裂レ易ク多ク丸木トシテ市場ニ出ツ、探松ト
同シ、家屋建築材ニ使用セラレ、直經一尺三四寸
ノ長サ二丈モ、市價二十吊内外ナリ

右ノ外車輪製材トシテ柞木(櫟)榆木(榆)角柱材
トシテ楸木(胡桃)黄波羅(黄蘗)水曲柳家具箱櫃
材トシテ刺楸等ノ木材産出スルモ其額尙シテ微
課税 木値ト称シ官材伐木料トシテ從價二分及木
税ト称シ木材ノ種類ニ依リ賣上價額ノ幾分ヲ徵

收

管内ニ於ケル木材ハ前述ノ如ク、琿春河上流域域及
密江沿岸地ヨリ産出スルモノナルモ尚ハ、同島ノ哈模塘附
近ノ山中ヨリ伐採セラレタル木材ノ、嘎呀河ヲ流下シ
圖們江ニ出テ、當地市場ニ出ツルモノ、尠カラズ

第十章 貨幣金融並ニ度量衡
第一節 貨幣

目下當地ニ於ケル流通貨幣ハ吉林省官帖局發行
永衡官帖ト称スル吊文紙幣、各省發行ノ銀貨銅
貨及有孔錢ヲ重キナルモノトシ、其他日本貨、露貨ノ
紙幣金銀銅貨等モ通用セリ、市場ニ於ケル右等
流通貨幣ノ種類ヲ舉クレハ左ノ如シ
支那貨幣

260

(1) 官帖紙幣

壹吊、貳吊、參吊、五吊、拾吊、五拾吊、百吊

(2) 銀貨

伍仙、拾仙、貳拾仙、五拾仙、壹元

(3) 銅貨

壹仙、貳仙

(4) 有孔錢

壹聖錢ニシテ五文トシテ計算セラル

本日本貨幣

本邦及朝鮮ニ於ケル凡ソノ流通紙幣金銀銅貨

露國貨幣

(1) 金貨

五留、七留半、拾留

(2) 銀貨

五哥、拾哥、拾五哥、貳拾哥、貳拾五哥、五拾哥、壹留

(3) 銅貨

壹哥、貳哥、參哥、五哥

(4) 紙幣

壹留、參留、五留、拾留、拾五留、貳拾五留、百留

右等貨幣、換算相場ハ市況ニ從ヒ時々變動スル
今ニ於ケル相場ヲ舉グハ左ノ如シ

壹吊文 十文

支那銀貨十仙 四百文

第二章

金融機關

前記貨幣、外元寶、銀、アル、旗人、俸給、使用スルモノ、市場ニ存スルモノ、甚ク僅少ナリ

當地ニ於ケル金融機關ハ唯官銀分号、一アル、ニシテ其本業ハ海關稅、租稅、收納及官衙經費出納ヲ取扱フモノナルモ時ニ信用アルモノ、或ハ土地抵當

金銀貨壹仙 四十文

日貨壹圓 五百三百文

金銀貨拾錢 五百文

銅貨壹錢 五十文

露貨壹圓 五百四百文

金銀貨拾哥 五百文

金銀貨壹哥 五十文

對レ貸金ヲナスコトアリ其信用貸出利率ハ月一分五厘乃至二分ニシテ最長期限シ一年トナリ土地抵當ニ對シテハ地價ノ半額ニ對スル高シ貸出スルニシテ不拂ノ際ハ之レヲ競賣スルコトナリ又右官銀分号ニ於テハ為替取扱ハ東三省内ノ官銀分号所在地及大清銀行ヲ介シテ各地ヘ送金ヲ取扱フ吉林道ノ送金手数料ハ官帖百吊ニ對シ一吊五百文ナリ

右ノ外為替業ヲナスモノハ義順昌及天和興、唯芝罘行為替ヲ取扱フ二店アルノミナリ

前記如クナルヲ以テ當地ヨリ各地ニ送金スルハ常ニ現金ヲ以テセザル可ラズ又普通金錢ノ貸借ハ多ク個人間ニ於テ之レヲ辨セザル可ラズ加フルニ質屋、如キ金融補助機關モ存在セサルヲ以テ内外商共ニ

カニシ郎

實ニ不便ヲ感シ居レリ

彈臺地方ニ於テ使用スル度量衡器ハ各戸些少ノ差違アリ
ルモ一般普通通ノモノヲ舉ゲルハ左ノ如シ

ヤ度

イ度

水尺 (大工用) 一尺ハ

一尺ハ八寸ハニ五

一尺ハ八寸ハニ五

右ノ外露國製吳服類ヲ量ルニ市場ニ於テハ多ク露國尺ヲ用ヰ之ル日本尺ニ比スレハ本ノ如シ

露尺一ヤルレンハ

一尺ハ八寸ハニ五

尺ニ量

支那量一斗ハ我々ニ斗三升九合六勺ニ相當スルモ市場ニ於テハ量器ニ據ラス衡器ヲ以テ計スルヲ常トス而レテ

穀類ハ左記ノ割合ヲ以テ一斗ト称セリ

白粟	六十斤
大豆、黑豆、蚕豆	五十六斤
小麦、高粱	六十四斤
小豆	四十斤
稗、粟	四十二斤
大麦	三十斤
燕麦	三十斤

ハ五 衡

一斤ヲ十六兩一兩ヲ十錢一錢ヲ十分トス日本斤ニ比スレ

ハ本ノ如シ

度量秤一斤(十六兩)ハ我々百四十三匁ニシテ

輕量秤(金銀秤)一兩ハ我々九匁三六ナリ

第二章

交通及通信

263

第一節 管内ニ於ケル交通路

琿春、西北、寧古塔、吉林、南、露、領、南、朝鮮ニ通スル四通ハ
達、要地ナルモ未ク鉄道等ノ如キ文明ノ交通機關ノ
一ツモ見ルベキモノナク、^{朝鮮}從來ノ不完全ナル道路ニ依リ
交通セラル。今之等交通路ノ状態ヲ掲ケルハ
本琿春ヨリ局子街ヲ經テ吉林ニ至ルモノ

本通路ヲ吉林街道ト称シ局子街迄二百四十清里
局子街ヨリ吉林迄九百十五清里合計千五百五十五
清里アリテ當地局子街間ニハ大盤嶺、高麗嶺等
ノ峻坂アルノミナラズ局子街吉林間モ山嶺多ク河
水湿地ノ渡渉スヘキモノ無数ニシテ交通容易ナラザ
ルモ大抵十七八日ニテ達スベシ冬季結氷中ハ十日内
外ニテ達ス本通路ハ内國貨物ノ運搬路ナルヲ以

テ車馬ノ往來常ニ絡繹タリ
琿春ヨリ汪清ヲ經テ寧古塔ニ至ルモノ

本通路ハ六百清里アリテ湿地及峻坂多ク夏季出
水ノ為メ交通往々杜絶スルコトアリ東清鐵道開
通以來當地寧古塔間ノ商關係大ニ減少シタル
ヲ以テ目下甚ク重要ノ道路ニアラス

第二節 管内ニ於ケル交通路

琿春ヨリ浦港ニ至ルニハ先ツ三里ニシテ露境ニ達シ
夫レヨリ六里ニシテ煙秋ニ至リ煙秋ヨリ三里ニシテ
セツト灣ニ至リテ乘船航行ハ九時間ニシテ浦港ニ達
ス煙秋迄ノ道路ハ平坦ニシテ支露國境界ニ當リ
一小嶺アルモ極メテ緩勾配ナリ明治三十三年中露
軍ハ琿春ヲ襲撃スルニ當リ砲車路トシテ改築

ニ
三
264

シタルモノニ係リ草馬ノ往來實ニ容易ナリトモ「ボセ」ト
浦間ハ一週二回ノ定期汽船アリ冬季結氷中ハ
不定期トナルモ尚一週乃至十日間毎ニ一回ノ航
行汽船アリ

二、琿春ヨリ土門子ヲ經テ露領蒙古街及東寧廳
三岔口ニ至ルモノ也

琿春ヨリ琿春河上流右岸二十里ヲ經過シテ土門
子ニ至リ支レヨリ二里余ニシテ國境ノ分水嶺ニ出
テ東方露領蒙古街ヲ經テ「ボセ」スロフクニ達シ又
右分水嶺ヨリ北方老爺嶺ヲ越ヘ三十余里ニシテ
東寧廳所在地三岔口ニ達ス

ホ、琿春ヨリ圖們江對岸ノ鮮技ニ至ルモノ

四、琿春訓戎間 ハ三里ニシテ道路平坦ナリ結氷中ハ

江上ノ行路自由トナルモ以テ二時間余ニ達ス

五、琿春慶源間 ハ五里ニシテ道路平坦ナリ渡江ノ

際江中ニ島地アルヲ以テ二回ノ渡船ヲ要ス

六、琿春新阿山間 ハ七里ニシテ道路概シテ平坦ナレ

共一ツノ大盤峯ト稱スル峻坂アリ雄基ニ至ルニ本

道路ヲ以テ最捷路トス

七、琿春下汝坪間 ハ九里ニシテ下汝坪ノ對岸地迄

支那領ヲ通過シ同地ニ渡ルモノナリ此間前項ハ

大盤峯ヲ通過シ後道路險悪トナリ行路通

容易ナラズ

前記四ヶ所ノ道路ハ何レモ圖們江ヲ渡過スルモノナリ

要シ其渡船甚ク不完全ナルヲ以テ重量貨物ノ
積載不可能ナリ俄テ解氷中ハ琿春河下流西

265

ト、琿春清津間口

歳子追陸路支レヨリ「ビヤン」ニテ図們江ニ出テ下
汝坪ニ至リ同地ヨリ再ヒ陸路ヲ下リ雄基ニ達
ス此「ビヤン」ハ帆又ハ曳網ニ依リ上下スルモノナル
ヲ以テ風ノ都合次第ニテ四日乃至一週間ヲ要ス
（六）琿春ヨリ雄基ニ至ルモ
琿春ヨリ雄基ニ至ルハ新阿山下汝坪等經由ノ
數路アリテ全距離十六里乃至十八里ナリトス
本通路ハ支那側ニハ大盤岑鮮地廟ニハ雄基
岑ノ峻坂アリテ（通）容易ナラザルモ渾江港
ノ開鎖清津ノ開港ニ伴ヒ本邦品並ニ外國
貨物ノ唯一ノ輸入通路トナリ近來世人ノ大ニ
注視スル所ナリ

琿春ヨリ清津ニ至ルハ慶源又ハ訓戎ヲ經テ會寧
ニ至リ同地ヨリ輕便鐵道ニ據リ清津ニ達スルコト
ヲ得レ共道路險惡ニシテ少クモ四日ヲ費サハルヲ
得ス然ルニ雄基清津間ハ三日間一回ノ航行汽船
アルヲ以テ當地ヨリハ先ッ雄基ニ出テ夫レヨリ汽
船ニテ清津ニ至ルヲ普通トス殊ニ貨物ノ如キハ
雄基經由ニアラザレハ經濟上ハ運搬不可能ナリ
依テ雄基ハ琿春ノ貿易上最モ必要ナル吞吐

郵便 當地ノ支那郵便局ハ局子街ニ毎週三回哈
爾賓ニ煙秋浦經由ニテハ每週二回郵便物ノ發
送レ又局子街哈爾賓局ヨリモ右ト同様ニ琿春局ニ

二九五

日本郵便局ハ對岸鮮地ノ慶源郵便局分室アリテ普通郵便爲替小包貯金事務ヲ取扱ヒ毎日一回同局ト、間ニ送達往復シ郵便物ノ配送ヲナセリ

電信 當地ニハ支那電報局アリテ三条ノ電信線ヲ有セリ即チ一ハ冷水泉子ヲ經テ局子街ニ一ハ冷水泉子、密古塔ヲ經テ吉林ニ一ハ露鎮煙秋ヲ經テ浦塩ニ通ス

東三省內三八一語——拾仙——(漢字、每字五仙)

第十三章 居留地

+

璦琿春在留本邦人々實表

有
來
別

三才

備考

揮春在留朝鮮人々負表

計	酌 婦	被 雇 人	女 髮 結 業
三二			
四三		一 一	
六三	四 四	一 三	一
一一			
三一 一			
一四 八	四 四	二 四	一

料	飲	大	理	貸	洗	時	菓	宿	寫	製	雜	醫
理	食	工	髮	自	濯	計	子	屋	真	粉	貨	師
店	店	職	店	轉	業	店	製	業	業	業	店	
店	店	店	店	業	業	店	造	業	業	業	店	
一	二	一	一	一	一	一	二	一	一	一	五	一
八	二	一	一	一	一	一	二	一	一	一	四	一
100												
二							三					
一	二						三					二
二	四	一	二	二	一	三	八	一	二	三	六	四

17/11

人

第14回

教會堂 當地ニ耶蘇天主教會堂一、回々教堂アリ
何レモ微々振ハス多ク、信徒ヲ有セス

土地家屋ノ賣買並ニ貸貸借ノ價額

理春市街地ハ百余ノ旗人ノ所有ニ係リ彼等移住

ノ際官ヨリ給與セラルタルモノ係レリ故ニ其當時ニ於

テハ漫リニ土地ノ賣買ヲ禁セラレ居リレカ現時ニ之レ

カ禁ヲ解カレ居ルモ實際土地ノ賣買甚タ少ク從テ

其標準價額ヲ知ルニ由ナレ

家屋ハ一間(間コ一丈奥行一丈八尺)、新築價額約百四ナレ

ヲ以テ賣買當時ニ於ケル新旧ノ狀態ニ應シ其價

額ヲ定ムルモノ、如シ

支那家屋一間ノ貸賃一ヶ月十五吊乃至二十吊ナリ

ニハ

269

三十四

又